

事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和6年3月1日

事業所名 フォレストキッズ川崎教室

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	4	0	<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じてパーティションを有効活用し、個々の活動空間を確保している。 ・利用者一人ひとりのニーズに応じた教室内の環境整備に努めている。 	
	②	職員の配置数は適切である	4	0	<ul style="list-style-type: none"> ・常勤職員 4 名を配置している。 	
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	4	0	<ul style="list-style-type: none"> ・活動に不必要なものを遮断し、活動に集中できるように環境整備をしている。 ・掲示物を有効活用し、活動のルールをイラストや記号、文字などで表し、利用者が一目で見理解できるように工夫している。 	
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	4	0	<ul style="list-style-type: none"> ・職員で毎日清掃を行い、清潔で心地よく過ごせる環境を提供している。 	
業務改善	⑤	業務改善を進めるための PDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	4	0	<ul style="list-style-type: none"> ・日ごろから職員間の情報共有を密に行い、業務改善に努めている。 	
	⑥	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	4	0	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者に対して、毎年事業所評価を実施している。 ・保護者からのご意見については、職員間で毎度情報共有を行い、今後の事業所運営に活かすための方法について話し合い、日々業務改善に努めている。 	
	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	4	0	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページ等を通じて、情報開示を行うとともに、教室内にアンケート結果を掲示し、保護者や利用者がいつでも見ることができるよう工夫している。 	
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	0	4	<ul style="list-style-type: none"> ・第三者評価は受審していないが、地域に開かれた事業所運営を行えるよう、外部機関との連携が 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も、外部機関との連携を図り、業務改善につなげられるように努めていく。

適切な支援の提供					図れるように努めている。	
	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	4	0	・大阪医科薬科大学 LD センターの研修や感覚統合学会の研修など、積極的に外部研修を活用し、発達特性の理解や指導方法等について学習することで、支援の質を高めていけるように努めている。	
	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	4	0	・毎回の支援後のフィードバックや電話、LINE 等で日頃より保護者と連絡を密に取り合い、個々のニーズを把握できるように努めている。 ・また、家庭の様子、園や学校の様子の情報共有、今後の事業所での取り組み等を検討するために、定期的に保護者面談を行っている。	
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	4	0	・法人で定められたアセスメントシートを使用している。	
	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	4	0	・児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインで示す支援内容から、支援に必要な項目を適切に選択し、具体的な支援内容を設定するように努めている。	
	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	4	0	・児童発達支援計画に沿った支援を組み立てることができるように努めている。	
	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている	4	0	・職員間で、日々情報交換を密に行い、共通理解を深めていくことで、支援プログラムの立案をチームで行っている。	
	⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	4	0	・支援プログラムが固定化しないように、職員間で情報交換を密に行い、日々教材研究に努めている。	
	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	0	4	・保護者の要望等により、現在は個別療育を中心に行っている。	・今後、保護者からの要望に応じて、小集団療育も実施できるように検討していく。

	⑰	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	4	0	・前回の利用者の様子や取り組み内容を踏まえて支援を行うことができるように、職員間での打ち合わせを実施している。	
	⑱	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	4	0	・支援終了後には、職員間での打ち合わせを必ず行い、情報共有をして、次回以降の支援に活かすことができるように努めている。	
	⑲	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	4	0	・日々の支援の記録を確実にし、職員間で情報共有ができるようにし、次回以降の支援について、支援内容や指導方法の検証、改善につなげていけるように努めている。	
	⑳	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	4	0	・現状での達成度や今後の課題について、しっかり話し合い、全職員参加体制でモニタリングを定期的に行っている。	
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	㉑	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	4	0	・管理者・児童発達支援管理責任者を中心に参加するように努めている。	
	㉒	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	4	0	・管理者・児童発達支援管理責任者を中心に参加するように努めている。	
	㉓	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	0	4	・利用者のかかりつけ医での受診情報を保護者と共有できるように努めている。 ・医療的ケアが必要な児童、重症心身障害のある児童は現在利用がない。	
	㉔	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	0	4	・利用者のかかりつけ医での受診情報を保護者と共有できるように努めている。 ・医療的ケアが必要な児童、重症心身障害のある児童は現在利用がない。	
	㉕	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	0	4	・支援後の保護者とのフィードバック時や保護者面談時に、園等での様子を伺い、情報共有をしている。	・今後、保護者からの要望に応じて、保育所等との連携を図っていけるように努める。

	②6	移行支援として、小学校や特別支援学校（小学部）との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	0	4	・支援後の保護者とのフィードバック時や保護者面談時に、就学先の小学校の情報共有をしている。	・今後、保護者からの要望に応じて、小学校等との連携を図っていけるように努める。
	②7	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	4	0	・他の専門機関と連携を取れるように日々努めている。 ・利用者の通っている他事業所や相談支援事業所等と連携を取り、情報交換ができるように努めている。	
	②8	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	0	4	・保護者からの要望に応じて、利用者が通っている保育所等と連携が取れるように努めている。	・今後、保護者からの要望に応じて、関係機関への訪問等を行い、地域に開かれた事業所運営に努める。
	②9	（自立支援）協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	0	4	・地域の自立支援協議会等、会議に参加し、情報共有ができるように、他の専門機関等との連携を深めている。	・今後、管理者・児童発達支援管理責任者を中心に、地域の協議会等に参加できるように努める。
	③0	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	4	0	・支援終了後には、職員間での打ち合わせを必ず行い、情報共有をして、次回以降の支援に活かすことができるように努めている。	
	③1	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）の支援を行っている	4	0	・支援後のフィードバック時や保護者面談時などに、園や家庭等での様子について、情報共有を行い、発達特性に合わせた声かけや掲示物の有効活用について、保護者とともに検討していけるように努めている。 ・また、定期的に保護者面談を実施し、家族支援についての情報提供をしている。	
	保護者への説明責任等	③2	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	4	0	・契約時に保護者に説明を行い、理解を得ている。 ・また、保護者が常時閲覧できるように、教室内に掲示している。
③3		児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得	4	0	・6か月ごとにモニタリングや個別支援計画を作成している。 ・支援後のフィードバック時や保護者面談時での情報共有をもとに、書類を作成し、保護者にしっかりと	

	ている			説明した上で、同意を得ている。	
34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	4	0	・支援後のフィードバック時や保護者面談時などに、園や家庭等での様子について、情報共有を行っている。	
35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	0	4	・支援後のフィードバック時や保護者面談時などに、一人ひとりの保護者の困りごと等を把握し、課題解決に向けて支援できるように努めている。	・今後、保護者会等の開催ができるよう、保護者同士の連携を支援できるように努める。
36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	4	0	・支援終了後に、職員間で情報共有を行い、保護者からの相談や申入れについて、早期対応できるように努めている。	
37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	4	0	・教室ブログやInstagram等、SNS を有効活用し、利用者、保護者のみならず、外部に向けた情報も発信できるように周知活動を行っている。	
38	個人情報の取扱いに十分注意している	4	0	・利用者の個人情報書類に関しては、ファイルで管理した上で、施錠できる書庫での保管を徹底している。 ・また、机上整理に努め、個人情報の紛失や漏洩がないように努めている。	
39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	4	0	・担当制での支援提供を行っていないため、毎回職員間で支援内容や利用者の様子などを引き継いでいる。 ・支援後のフィードバック時や保護者面談時での様子などを職員間で情報共有し、次回以降の支援に活かせるように努めている。	
40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	0	4	・療育センターなど、他の専門機関等と連携を図り、地域特性のニーズ分析などを行いながら、地域に根差した事業所運営に努めている。	・今後、「親子教室」など、地域住民の方が気軽に参加できるイベントを開催できるように、地域に根差したサポート体制を作れるように努める。

非常時等の対応	④①	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	4	0	・年 2 回以上、事業所で防災訓練を実施し、緊急災害時に備えている。
	④②	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	4	0	・年 2 回以上、事業所で防災訓練を実施し、緊急災害時に備えている。
	④③	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	4	0	・契約時に必ず聞き取り、利用者の基本情報シートに記入をし、必ず職員間で情報共有を行っている。 ・また、医師からの診断書や意見書、発達検査の結果等を必ず職員全員で情報共有している。
	④④	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	4	0	・契約時に必ず聞き取り、利用者の基本情報シートに記入をし、職員間で必ず情報共有を行っている。 ・事業所では食事を提供していない。
	④⑤	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	4	0	・ヒヤリハットがあった場合には、ヒヤリハット表に必ず記入をし、同じ内容でのヒヤリハットを起こさないように、今後の対策を職員全員で協議している。
	④⑥	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	4	0	・事業所内等の研修を受け、対応方法を学習している。
	④⑦	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	4	0	・契約時に、保護者にしっかりと説明を行い、了解を得ている。

○この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。